

全国がん登録システム不具合への対応作業完了報告①

事象と原因

【事象】2023年初夏の2020年集計確定の際に数値の異常が発覚

【原因】全国がん登録データベースのシステム更改において、以下の要因が重なったことにより、がんを分類するコード（ICD-O）の更新を行った際の作業に不備が生じた。

- ・ 委託業者との理解共有・コミュニケーション不足
- ・ コード更新における準備工程期間の不足、検証体制の未整備
- ・ がん登録運用方針決定における国がん内意思決定プロセスの不備

講じた再発防止策

- ・ システム請負業者との会議の頻度を増やし、管理責任者は常時、会議に参加することとした。
- ・ アプリケーションを用いたプロジェクト管理を導入し、関係者内において事業内容の理解と進捗が共有されるようにした。
- ・ 全国がん登録システムを含むがん登録関連システム全体の合理化につき抜本的に検討している。
- ・ 2025年度以降のシステム改修については、十分な工程期間を確保するとともに、外部有識者による十分な検証体制を構築することとした。
- ・ がん登録運用における方針決定を整理し、それに伴う諮問委員会の見直しを行った。
- ・ これら作業を主体的に担う国がん職員を補充し、役割の再整理を行った。

全国がん登録システム不具合への対応作業完了報告②

これまでの復旧の進捗

2023年 11月	外部有識者による復旧のためのタスクフォースを構成し、現状の分析を開始。2020年集計のためシステム更改前の環境に戻すことを決定。
2024年 3月	2020年罹患数・率報告を1年遅れで公表
5月	2021年集計以降の作業方針の決定、マスタ更新作業など開始
8月	都道府県において2021年集計のための通常業務再開
2025年 3月	2021年罹患数・率報告を1年遅れで公表

公表の遅延解消及び迅速化

2025年4月に組織改編を行い、人員の補強をした。2025年度の作業において、2年分の病院等への遡り調査、市町村への住所異動確認調査を同時に行うことで、病院等、市町村、都道府県の負担を最小限に抑えつつ作業時間の大幅な短縮が実現した。外部有識者委員会を有効活用し、キャッチアップが最短で実施できた。

2026年 1月	2022年罹患数・率報告を約9か月遅れで公表 及び 2023年罹患数・率報告を以前より約3か月前倒しで公表 並びに 2016年生存率報告を公表し、不具合対応を完了した。
2月	2017年及び2018年生存率報告を公表した。

今後は、毎年1月頃に罹患数・率報告及び生存率報告を公表予定。